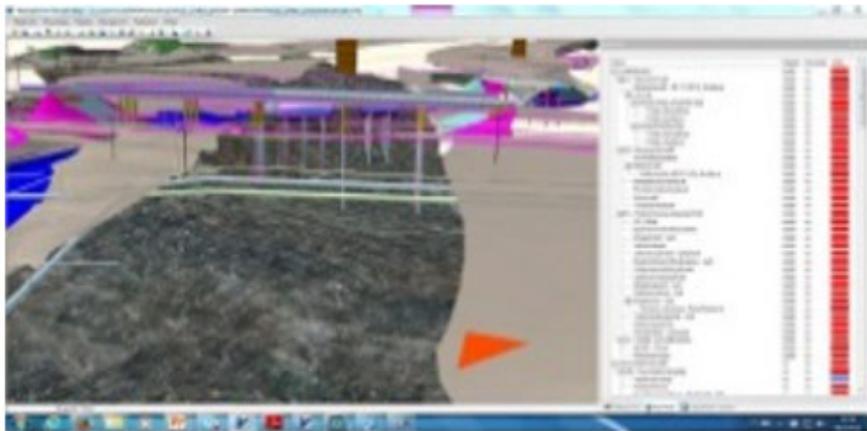
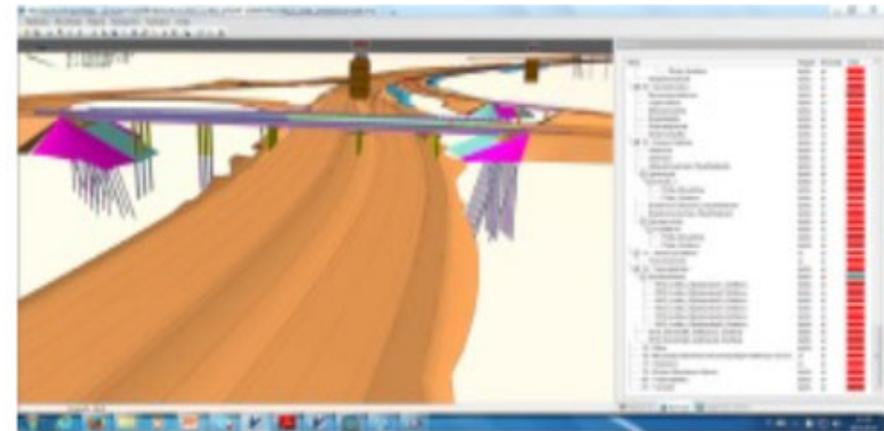


# 欧州におけるBIM/CIMの取組

- BIM(BIM/CIM は日本固有の名称)は、欧州が先進国であり、英国をはじめフィンランドやノルウェーなどが基準や仕組みを策定している。欧州においてBIMの3次元モデルが要求された場合、IFC(Industry Foundation Classesの略)による3次元モデルの交換が主流となりつつある。
- BIMを活用するためのパイロットプロジェクトの事例として、フィンランドの主要道路「VT12」がある。当該プロジェクトでは道路モデル形状の可視化だけではなく、情報の持ち方、持たせ方が重要と考えられており、道路設計プロジェクトの場合、メタデータ、属性情報を共通的(違うプロジェクトも含めて)な管理で可能かどうかを検討されている。



既存構造物を含む初期データ



同一視点の道路モデル (属性表示)

- アジアではシンガポールが建築確認申請時にBIMモデルの提出を義務付けるなどBIM活用を積極的に推進し、建物だけでなく、国土全体を3次元モデル化しようという「バーチャル・シンガポール」というプロジェクトが進められている。

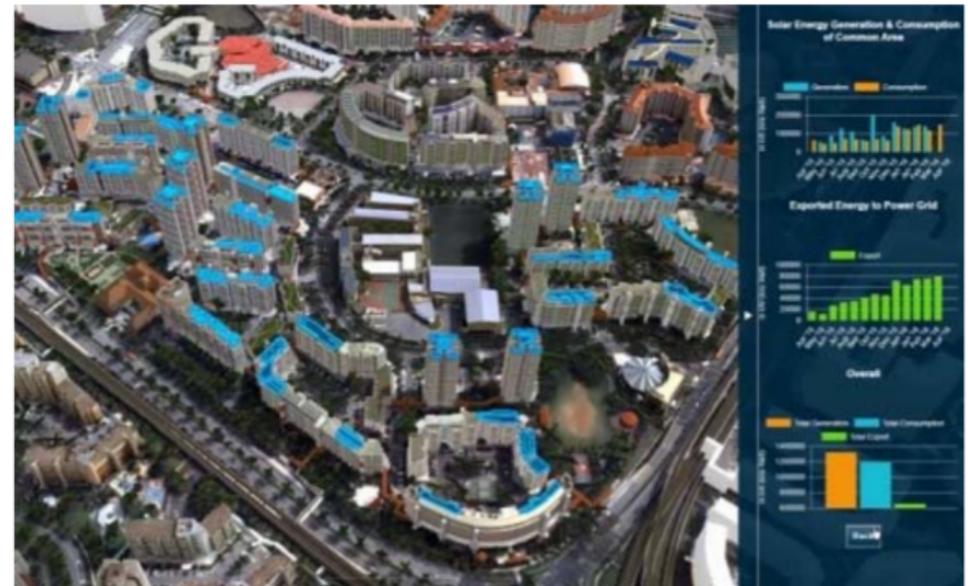
- シンガポールでは、フランスのソフトウェア企業ダッソー・システムズと提携し、**国土を丸ごと3D化した「バーチャル・シンガポール」プラットフォームの構築**を推進している。
- 環境や防災などのシミュレーション、インフラ・エネルギー管理、まちづくりなど幅広い分野での活用を狙う。

## アクセシビリティの検討



障害者や高齢者のバリアフリールートの特特定やバス停やMRT駅への最もアクセスしやすい便利なルートの検索が可能。

## 日照量の分析



建物の高さ、屋根の表面、日光の量などのデータを利用できるため、都市計画担当者は、どの建物がソーラーパネルの設置に適しているかを分析可能。

出所：Virtual Singapore  
<https://www.nrf.gov.sg/programmes/virtual-singapore>